

日本福祉心理学会第 24 回大会プログラム

大会テーマ：つなぐ実践としての福祉心理学
～当事者・制度・専門を結び、生活を支える～

会期：2026年8月8日（土）～9日（日）

会場：慶應義塾大学・日吉キャンパス・来往舎

住所：神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

主催：日本福祉心理学会

後援：慶應義塾協生環境推進室、慶應義塾大学教養研究センター（ReCLA）

大会長：中野 泰志（慶應義塾大学）

第 1 日目（8 月 8 日 [土]）

9 時 00 分～ 受付開始 < 1 階シンポジウムスペース前 >

9 時 30 分～10 時 00 分 各種委員会 < 2 階大会議室、中会議室 >

10 時 00 分～11 時 00 分 理事会 < 2 階大会議室 >

11 時 00 分～11 時 10 分 休憩・移動

11 時 10 分～12 時 00 分 総会 < 1 階シンポジウムスペース >

12 時 00 分～13 時 00 分 昼食・休憩（会場での食事も可能です）

13 時 00 分～13 時 15 分 開会式 < 1 階シンポジウムスペース >

13 時 15 分～14 時 15 分 記念講演 < 1 階シンポジウムスペース > 一般公開

精神障害当事者の視点から専門職の支援を問い直す―「つなぐ実践」としての支援関係を考える―

演者：山田 悠平（一般社団法人精神障害当事者会ポルケ）

14 時 15 分～14 時 25 分 休憩

14 時 25 分～15 時 55 分 シンポジウム①

- ・ **実行委員会企画シンポジウム①** ＜1 階シンポジウムスペース＞ 一般公開
障害のある学生の支援における福祉心理学の役割

企画・司会：中野 泰志（慶應義塾大学）

話題提供 1：近藤 武夫（東京大学先端科学技術研究センター）

話題提供 2：青木 千帆子（筑波技術大学）

話題提供 3：柏倉 秀克（桜花学園大学）

指定討論：飯野 由里子（東京大学）

- ・ **自主シンポジウム①** ＜2 階大会議室＞

声を聴くことから始まる支援—福岡・警固公園での夜回り活動と「まちの保健室」の実践から—

企画：大西 良（筑紫女学園大学）

司会：占部 尊士（西九州大学）

報告：大西 良（筑紫女学園大学）

コメンテーター：大迫 秀樹（福岡女学院大学）

15 時 55 分～16 時 10 分 休憩・移動

16 時 10 分～17 時 40 分 シンポジウム②

- ・ **実行委員会企画シンポジウム②** ＜1 階シンポジウムスペース＞ 一般公開
当事者・制度・専門職を結び、生活を支えるためのリンクワーク

企画・司会：中野 泰志（慶應義塾大学）

話題提供 1：吉泉 豊晴（日本視覚障害者団体連合）

話題提供 2：桝村 雅文（京都悠仁福祉会 京都認知症総合センター）

話題提供 3：堀田 聡子（慶應義塾大学大学院）

指定討論：宮内 久絵（筑波大学）

*一般公開です。

- ・ **自主シンポジウム②** ＜2 階大会議室＞

**支援につながりにくい子どもと家庭にどう届くか—保育・教育・福祉をつなぐ
家族支援の課題と可能性—**

企画・司会：石田 祥代（千葉大学）

話題提供 1：藤後 悦子（東京未来大学）

話題提供 2：ヘイスカ佳代

話題提供 3：チャンゴックチャミー

指定討論：野澤 純子（國學院大学）

17 時 40 分～18 時 00 分 休憩・移動

18 時 00 分～20 時 00 分 **情報交換会** < 1 階ファカルティラウンジ> 要予約

第2日目（8月9日〔日〕）

9時15分～ 受付開始 <1階シンポジウムスペース前>

9時30分～10時30分 **研究発表1：ポスター発表** <1階シンポジウムスペース>

1. 支援につながりにくい家庭を包摂する地域資源としての図書館—保育所等における家庭支援向上プログラムの開発に向けた探索的検討—
藤後 悦子（東京未来大学）・野澤 純子（國學院大学）・石田 祥代（千葉大学）
2. 母子生活支援施設における心理支援業務構築に関する研究—全国実態調査の再分析から見た現状と課題—
木元 卓也（宇部フロンティア大学）
3. 学生はなぜ図書館を利用するのか—短大付属図書館の「寄り添うサービス」に関する事例から—
荒谷 容子（岩国短期大学）
4. 地域・在宅看護学実習カンファレンスにおける教育実践の意義—経験の意味づけを支える振り返りと教員のかかわりに着目して—
入江 多津子（SBC 東京医療大学）・諏訪免 典子（SBC 東京医療大学）
5. インターネットニュースにおける著名人自殺報道の分析—2022年5月11日に配信された記事を対象として—
藤原 幸子（九州医療科学大学）
6. 児童虐待通告に奔走するソーシャルワーカーの日常を描く—児童相談所のオートエスノグラフィー—
大原 天青（東京都小平児童相談所）
7. 肢体不自由特別支援学校の児童生徒への教育活動に対する教員の捉え方
松山 郁夫（鎮西学院大学）
8. 小・中学生のデジタルメディア使用が睡眠習慣およびメンタルヘルスに及ぼす影響
大西 良（筑紫女学園大学）
9. 児童家庭支援センターにおける乳児院・児童養護施設と連携した福祉心理学的な地域支援の研究（1）—施設長・相談支援員に対するアンケート調査から—
大迫 秀樹（福岡女学院大学）・白澤 早苗（福岡女学院大学）
10. 青年期に移行対象を所持する人の特徴について—母子関係との関連に着目して—
紀平 あきら（暁学園）・山崎 康一郎（日本福祉大学）・荒屋 昌弘（大阪人間科学大学）

11. 我が国のソーシャルワークにおける“曖昧さへの対処 (tolerance for ambiguity)”に関する文献研究—曖昧さが支援にもたらす影響に焦点を当てて—

大部 令絵（日本社会事業大学）

12. 多職種・地域を繋ぐ「ケアカフェ」ソーシャルワーカー発信バージョンの試行—心理的安全性に基づく「響き合い」から揺れ動く紐帯（ちゅうたい）の形成へ—

山田 裕一（立命館大学生存学研究所）

10 時 30 分～12 時 00 分 **福祉心理士会・研修会** ＜2 階大会議室＞

つなぐ実践者としての福祉心理士の基盤

当事者・制度・専門を結び、生活を支えるための福祉心理学の展望

柏女 霊峰（淑徳大学名誉教授）

福祉心理士が持つべき矜持とはなにか

金城 悟（東京家政大学）

福祉心理士が持つべき福祉の専門性の基盤とはなにか

米川 和雄（名古屋市立大学大学院）

12 時 00 分～13 時 00 分 昼食・休憩

・福祉心理士会第 12 回全国大会総会 ＜2 階大会議室＞

13 時 00 分～14 時 30 分 **学会企画シンポジウム** ＜1 階シンポジウムスペース＞

社会的養護における子どもの声をつなぐ—子どもの最善の利益を実現する生活と支援の創出に向けて—

企画・司会：日本福祉心理学会研究 研修推進委員会（井出 智博・大原 天青）

話題提供 1：永野 咲（武蔵野大学）

話題提供 2：勇生（IFCA ユース）

話題提供 3：加藤 里菜（子供の家ユースベース）

指定討論：大迫 秀樹（福岡女学院大学／日本福祉心理学会常任理事）

14 時 30 分～14 時 40 分 移動・休憩

14 時 40 分～15 時 55 分 **研究発表 2：口頭発表** ＜1 階シンポジウムスペース＞

1. 福祉心理学における実践と研究の循環を目指して—多様化する福祉課題への取り組みを提示した公開研修会の実践報告—

占部 尊士（西九州大学）・大迫 秀樹（福岡女学院大学）・大西 良（筑紫女学園大学）・鍋内 哲朗（国際医療福祉大学）

2. ホームレス・生活困窮者支援の現場における心理教育的支援の意義―民間支援団体 A における勉強会での発表場面の分析と考察―
白井 朋世（創価大学大学院）
3. 病院見学プログラムを活用した医療ソーシャルワーカー理解のための初年次教育の検討―病院見学プログラムを経験した医療ソーシャルワーカーへのインタビュー調査を通して―
鍋内 哲朗（国際医療福祉大学）・占部 尊士（西九州大学）
4. 重症心身障害児を介護した母親の心理的危機に関する語り―介護殺人防止に向けた支援課題の計量テキスト分析―
宮元 預羽（湘南医療大学）
5. 福祉心理専門職養成におけるストーリー教材の活用―「福祉サービスの組織と経営」に対する理解促進と学習動機に着目して―
大久保 圭介（群馬医療福祉大学）

15 時 55 分～16 時 00 分 **閉会式** < 1 階シンポジウムスペース >

【ポスター発表】

ポスターを掲示するパネルのサイズは、幅 120cm、高さ 160cm です。このサイズ以内になるようにご用意ください。

ポスター発表の討論時間は第 2 日目（8 月 9 日）9 時 30 分～10 時 30 分です。在籍時間は、奇数番が 9 時 30 分～10 時、偶数番が 10 時～10 時 30 分です。なお、ポスターの貼付は、第 1 日目（8 月 8 日）の 9 時 30 分以降可能です（メイン会場であるシンポジウムスペースで 2 日目の 12 時 45 分まで展示可能）。撤去は、第 2 日目（8 月 9 日）の 12 時 45 分までをお願いします。

【口頭発表】

1 演題あたり 15 分（発表 12 分、討論 3 分）です。